

精神医学講座

| | |
|-------------------|-----------------|
| 教授：中山 和彦 | 精神薬理学，てんかん学 |
| 教授：伊藤 洋 | 精神生理学，睡眠学 |
| 教授：中村 敬 | 精神病理学，森田療法 |
| 准教授：宮田 久嗣 | 精神薬理学，薬物依存 |
| 准教授：須江 洋成 (兼任) | 臨床脳波学，てんかん学 |
| 准教授：忽滑谷和孝 | 総合病院精神医学 |
| 講師：山寺 亘 | 精神生理学，睡眠学 |
| 講師：小曾根基裕 | 精神生理学，睡眠学 |
| 講師：小野 和哉 | 精神病理学，児童精神医学 |
| 講師：石黒 大輔 | 精神病理学，精神医学 |
| 講師：橋爪 敏彦 | 老年精神医学，総合病院精神医学 |
| 講師：大淵 敬太 | 精神生理学，睡眠学 |
| 講師：塩路理恵子 | 森田療法，精神病理学 |
| 講師：三宮 正久 | 精神薬理学，精神医学 |
| 講師：館野 歩 | 森田療法，比較精神療法 |

教育・研究概要

I. 精神病理・精神療法・児童精神医学研究会

構造的な精神療法，精神病理学的研究，児童精神医学研究を行った。児童精神医学研究では，外来における発達障害の治療システムの研究を行った。また，発達障害と精神障害に共通する「注意障害」に注目してその相違の研究を開始した。精神療法では，発達障害の自己肯定感を維持改善するカウンセリング方法として Self-Psychological Psychotherapeutic Approach (SPPA) を開発中であるが，実際の臨床施行を通じてその技法の開発洗練化を図っている。社会精神医学研究では，ホワイトカラーの就労者における「うつ」の要因について研究を継続している。

II. 森田療法研究会

「外来森田療法のガイドライン」の中国語版を出版した。今年度もパニック障害と全般性不安障害に関する性格学および共存障害の研究，強迫性障害のサブタイプに関する研究，強迫性障害女性例の生活史に関する質的研究，不安障害・気分障害の経過中に生じる「寝込み反応」についての精神病理学的研究，入院森田療法におけるうつ病の回復要因についての研究を継続した。また森田療法と，アクセプタンス・コミットメント・セラピーを始めとする“第三世代”の認知行動療法との比較研究にも着手した。

III. 薬理生化学研究会

基礎研究では，1) 脳内透析法およびラジオイムノアッセイ法による新規向精神薬の脳内作用機序に関する研究，2) 科学技術振興機構 ERATO および専修大学大学院文学研究科心理学部門との共同研究により，薬物依存の形成，維持，再発における脳内神経回路の役割，および，薬物依存の新規治療薬開発に関する研究を行った。臨床研究では，1) 向精神薬の臨床的有用性および有害事象に関する研究，2) 放射線医学総合研究所との共同研究で機能的脳MRIを用いた目的指向性行動における内側前頭野の役割の研究，3) DNA 研との共同研究で神経変性疾患における神経栄養因子遺伝子多型の研究，4) アカシジアの関連遺伝子に関する研究を行った。

IV. 精神生理学研究会

1) Cyclic Alternating Pattern (CAP) を指標とした女性における性周期による睡眠内容および認知機能への影響に関する研究，2) 睡眠医療および睡眠研究用プラットフォームの構築に関する研究，3) 睡眠障害患者の QOL を改善するための科学的根拠に基づいた診断治療技術の開発，4) 慢性不眠症および気分障害に対する集団認知行動療法の有効性に関する実証的研究，5) 多回睡眠潜時測定 (MSLT) 所見とモダフィニルの治療有効性からみた中枢性過眠症に関する臨床的検討などを継続あるいは新規着手した。

V. 老年精神医学研究会

認知症患者に VSRAD と vbSEE による解析を加えた脳画像検査と神経心理検査を行い，認知症の重症度，疾患分類などと画像検査との関連を検討した結果，反応抑制課題と海馬容積の低下が示された。認知症の長期予後研究では，認知症の原因疾患や介護保険の利用の有無では生命予後への影響はなかったが，介護保険による受給額は，血管性認知症でアルツハイマー型認知症よりも高額であった。また，外科との共同で「癌患者における精神障害」の疫学研究を行い，乳癌患者での精神障害の有無，精神症状の程度，背景因子との関連，身体疾患との関連などを調査した。

VI. 総合病院精神医学研究会

うつ病の再発予防教育では，ビデオ教材をスライド化し，より柔軟に患者のニーズに対応した。効果判定の心理検査では，認知・行動・感情の3側面と総合的なパーソナリティの測定に加え，うつ病の寛

解期における睡眠状態を把握する目的で、新たに睡眠評価尺度も取り入れた。また、最近増加しているパーソナリティの未成熟性や偏りが存在する症例や双極性うつ病にも対応するプログラムを検討した。末期患者に対する終末期医療（緩和ケア）では、癌センター東病院との数年来の共同研究により、がん患者、その家族、および遺族の心理的課題に関する研究を行った。さらに、入院患者やスタッフから要請を受けて、臨床心理士を中心とした精神科スタッフがメンタルサポートを開始した。

Ⅶ. 臨床脳波学研究会

抗精神病薬のヒスタミン H1 受容体への親和性とけいれん閾値との関連を参考に、てんかんに合併する精神障害の治療ガイドラインを作成し最終報告を行った。さらに環状 20 番染色体症候群の症例と睡眠時てんかん性の無呼吸が疑われた成人てんかん例の症例報告を行った。また、てんかんに合併する精神障害の治療戦略として、てんかんにおける抑うつ再発予防に関する研究を開始した。

Ⅷ. 臨床心理学研究会

心理療法の技法の向上を図るために症例検討を継続した。また、認知行動療法、森田療法、緩和ケア、サイコオンコロジー、災害時のこころの支援などの学習を行った。心理テストでは、発達障害、高次脳機能障害を中心に研究をすすめた。慈恵心理臨床の集い（研究会）では、明石加代先生を講師として招聘し、災害時のこころの支援について実践的な学習を行った。加えて、心理研修生を受け入れ、心理学的教育に積極的に取り組んだ。

「点検・評価」

2010 年度においても、9 部門の研究会からなる研究活動を行い、基礎的研究から臨床研究まで幅広い方法論で研究活動を行った。このことは、脳科学から精神療法まで幅広い知識が必要とされる精神科治療を実践するに際して望ましい研究体勢にあるといえる。本年度は、これに加えて、児童期から老年期まで幅広い疾患に対して、それぞれの研究会が専門外来を開設したり、異なった研究班が共同して研究活動や治療体制を設けるようになった。このことは、医学科における研究と臨床のあり方として望ましく、また、教育の観点からも良好な効果が期待される。研究活動においては、従来通り、それぞれの研究会が積極的に研究費を獲得して研究を行い、活発な学会発表がなされている。しかし、原著論文、

特に、学術的に権威のある国際誌などへの投稿は多いとはいえず、今後、より厳密な研究計画に基づいた独創的な研究が求められる。さらに、各研究部門での独立した研究テーマにとどまらず、教室全体として大きな研究目標を設け、基礎と臨床のジョイントした研究を計画する必要があると感じている。

研究業績

I. 原著論文

- 1) Miyata H, Itasaka M (Senshu Univ), Kimura N, Nakayama K. Decreases in brain reward function reflect nicotine- and methamphetamine-withdrawal aversion in rats. *Curr Neuropsychopharmacol* 2011; 9(1): 63-7.
- 2) Nakamura K. A comment on "Geriatric Psychiatric Care in Taiwan": Focusing on elder suicide in East Asia. *Int Med J* 2010; 17 (Suppl. 1): 37-9.
- 3) Ito T, Shimizu K, Ichida Y, Ishibashi Y, Akizuki N, Ogawa A, Fujimori M, Kaneko N, Ueda I, Nakayama K, Uchitomi Y. Usefulness of pharmacist-assisted screening and psychiatric referral program for outpatients with cancer undergoing chemotherapy. *Psychooncology* 2011; 20(6): 647-54. Epub 2011 Mar 7.
- 4) 中山和彦. 精神科薬物療法の最適化 発症から自己治療過程を踏まえて. 慈恵医大誌 2010; 125(1): 1-17.
- 5) 中山和彦. スポーツ精神医学への期待臨床精神医学の立場から うつ病治療における運動療法. スポーツ精神医学 2010; 7: 13-8.
- 6) 中村晃士, 瀬戸 光, 沖野慎治, 額原禎人, 小野和哉, 中山和彦. 中年期の就労と自我同一性危機. 精神科治療 2010; 25(5): 673-9.
- 7) Nakamura K, Yamao A, Seto H, Okino S, Ono K, Nakayama K. Sibling rivalry disorders in school-age children accompanied by impulsive behaviors. 児童青年精医と近接領域 2010; 51 (Suppl.): 20-7.
- 8) 川上正憲, 中村 敬, 中山和彦. Aripiprazole の投与が有効であった強迫性障害の 3 症例 精神症候学の視点からの考察. 精神科治療 2010; 25(10): 1379-83.

II. 総 説

- 1) 中山和彦, 川村 諭. 【「急性精神病」を再考する】女性と急性精神病. 精神化治療 2010; 25(9): 1177-83.
- 2) 中山和彦. ライフステージに応じた治療. *Liaison* 2010; 20: 6-12.
- 3) 中村 敬, 樋之口潤一郎, 谷井一夫. 【難治性うつ

病 見立てと精神療法的取り組み】難治性うつ病の精神療法 養生論(森田療法)の立場から. 精神療法 2010; 180(5): 590-5.

- 4) 中村 敬. 【社交不安障害】社交不安障害の精神療法. 精神科 2010; 17(2): 149-55.
- 5) 中村 敬. 【うつ病のお薬】うつ病の回復過程と抗うつ薬. こころのりん a・la・carte 2011; 30(1): 83-8.
- 6) 宮田久嗣. 【薬物依存症 薬物依存症のトレンド】薬物依存症の臨床各論 最新動向 ニコチン. 日臨 2010; 68(8): 1501-5.
- 7) 宮田久嗣. メンタルヘルスの広場 精神科の新薬について. 心と社会 2010; 41(2): 118-23.
- 8) 川上正憲, 中村 敬, 中山和彦. Aripiprazole の投与が有効であった強迫性障害の3症例 精神症候学の視点からの考察精神科治療 2010; 25(10): 1379-83.
- 9) 久保田幹子, 中村 敬. 【初回面接】森田療法における初回面接. 精神療法 2010; 36(4): 478-84.

Ⅲ. 学会発表

- 1) 中山和彦. 接近する新規抗うつ薬と非定型抗精神病薬の臨床的意義. 第29回日本社会精神医学会. 松江, 2月.
- 2) 中山和彦. てんかんが語る脳内物語-けいれんする生命. 第44回日本てんかん学会. 岡山, 10月.
- 3) 中山和彦. 憑依・祈禱性精神病・非定型精神病的系譜-カトニアの世界へ. 第14回精神医学史学会. 宇都宮, 10月.
- 4) 中山和彦. 激変する職場環境-普遍的課題は何か. 第10回鳥取県東部精神神経疾患懇話会. 鳥取, 11月.
- 5) 中山和彦. 東京慈恵会成立から探る-それを支えた慈恵・維新の志士達. 第127回成医会総会. 東京, 10月.
- 6) 中村 敬. 外来森田療法のガイドライン. 第10回日本外来精神医療学会. 東京, 7月.
- 7) 中村 敬. (教育講演) 心身医療と森田療法-外来森田療法のガイドラインから-. 第50回日本心身医学会近畿地方会. 枚方, 8月.
- 8) 中村 敬. 問診森田療法要点. 第八届中国森田療法学术交流大会. 北京, 8月.
- 9) 宮田久嗣. “物質”と“物質によらない”嗜癖行動の共通点と差異. 平成22年度アルコール・薬物依存関連学会合同学術総会(第45回日本アルコール・薬物医学会・第22回日本アルコール精神医学会・第13回ニコチン・薬物依存研究フォーラム). 北九州, 10月.
- 10) 宮田久嗣. (第2部: 嗜好品, リラクゼーションによるストレス緩和効果)喫煙によるストレス緩和効果. 研究集会2010「ストレスと疾病-嗜好品の役割を考

える-」. 東京, 6月.

- 11) 日下 朗, 宮田久嗣, 北角和浩, 中山和彦. Bupropion の禁煙補助作用における脳内報酬系ドーパミン神経の関与: 脳内自己刺激実験と脳内透析実験の検討. 第20回日本臨床精神神経薬理学会・第40回日本神経精神薬理学会合同年会. 仙台, 9月.
- 12) 日下 朗, 宮田久嗣, 北角和浩, 中山和彦. ブロピオンの禁煙補助作用における脳内報酬系ドーパミン神経の関与: 脳内自己刺激実験と脳内透析実験の検討. 平成22年度アルコール・薬物依存関連学会合同学術総会(第45回日本アルコール・薬物医学会・第22回日本アルコール精神医学会・第13回ニコチン・薬物依存研究フォーラム). 北九州, 10月.
- 13) 森田道明, 三宮正久, 川村 諭, 宮田久嗣, 中山和彦. Aripiprazole induced silent extrapyramidal syndrome. 第20回日本臨床精神神経薬理学会・第40回日本神経精神薬理学会合同年会. 仙台, 9月.
- 14) 原田大輔, 山寺 亘, 佐藤 幹, 青木 亮, 岩下正幸, 大淵敬太, 小曾根基裕, 伊藤 洋, 中山和彦. 精神生理性不眠症外来患者に対する集団認知行動療法の臨床効果. 日本睡眠学会第35回定期学術集会. 名古屋, 7月.
- 15) 室田尚哉¹⁾, 宮田久嗣, 澤 幸祐¹⁾(¹専修大). ラットがレバーを押し続ける行動にニコチンがおよぼす影響. 日本動物心理学会第70回大会. 東京, 8月.
- 16) 川上正憲, 谷井一夫, 矢野勝治, 樋之口潤一郎, 館野 歩, 塩路理恵子, 今村祐子, 赤川直子, 久保田幹子, 中村 敬, 中山和彦. (一般演題: 効果・量的研究 I) B-8. 強迫性障害に関するサブタイプの検討(第1報)-怒り(攻撃性)を指標にして-. 第28回日本森田療法学会. 札幌, 11月. [日森田療法誌 2011; 22(1): 71-2]

Ⅳ. 著 書

- 1) 中山和彦編著. チャート医師国家試験対策6: 精神科. 改訂第4版. 東京: 医学評論社, 2010.
- 2) 中山和彦. 第Ⅲ部: 治療論 第1章: うつ病の身体療法 1. 薬物療法総論. 大野裕編. うつ病治療ハンドブック: 診療のコツ. 東京: 金剛出版, 2011. p.178-91.
- 3) 中村 敬, 北西憲二, 丸山 晋, 石山一舟, 伊藤克人, 立松一徳, 黒木俊秀, 久保田幹子, 橋本和幸, 市川光洋. 日本森田療法学会外来森田療法の標準化に関する委員会著. 施旺紅訳. 問診森田療法標準化操作指南. 西安: 第四軍医科大学印刷所, 2010.
- 4) 宮田久嗣. VI章: 薬物依存の基礎と臨床 ニコチン依存 ニコチン依存の基礎. 福居顯二(京都府立医科大学)編. 脳とこころのプライマリケア8: 依存. 東京: シナジー, 2011. p.353-66.

- 5) 仙波純一（さいたま市立病院）、松浦雅人（東京医科歯科大学）、中山和彦、宮田久嗣監訳。精神薬理学エッセンシャルズ：神経科学的基礎と応用。第3版。東京：メディカルサイエンス・インターナショナル、2010。

V. その他

- 1) 中山和彦。不安障害。げんき 2010；秋：9。
- 2) 中山和彦。「生活の質」を高めるために その54：弱っているひとに対する心づかい。ともしび 2010；9：14-5。
- 3) 中村 敬。森田療法と認知療法。精神療法 2011；37(1)：80-1。

小 児 科 学 講 座

| | |
|----------------------------|--------------|
| 教 授：井田 博幸 | 先天代謝異常 |
| 教 授：臼井 信男 | 小児腎臓病学 |
| 教 授：星 順隆 (輸血部に出向) | 小児血液腫瘍学、輸血学 |
| 教 授：大橋 十也 (DNA医学研究所に出向) | 先天代謝異常 |
| 准教授：宮田 市郎 | 小児内分泌学 |
| 准教授：勝沼 俊雄 | 小児アレルギー学 |
| 准教授：和田 靖之 | 小児感染免疫学 |
| 准教授：加藤 陽子 (輸血部に出向) | 小児血液腫瘍学 |
| 准教授：浦島 充佳 (臨床研究開発室に出向) | 臨床疫学 |
| 准教授：斉藤 和恵 | 小児臨床心理学 |
| 講 師：藤原 優子 | 小児循環器病学 |
| 講 師：斎藤 義弘 | 小児感染免疫学 |
| 講 師：田知本 寛 | 小児アレルギー学 |
| 講 師：小林 博司 (DNA医学研究所に出向) | 先天代謝異常 |
| 講 師：秋山 政晴 | 小児血液腫瘍学 |
| 講 師：布山 裕一 | 小児循環器病学、新生児学 |
| 講 師：小林 正久 | 先天代謝異常、新生児学 |
| 講 師：浦島 崇 | 小児循環器病学 |

教育・研究概要

I. 代謝研究班

代謝研究班における研究対象は (1) 先天代謝異常症 (2) 小児内分泌疾患 (3) 奇形症候群である。(1) に関しては①ライソゾーム病 (LD) の骨髓移植で最低限必要なドナー細胞の割合②LD においてのオートファジー亢進は化学シャペロンで抑制出来る③レンチウイルスが LD の遺伝子治療のベクターとして有用である④抗 CD3 抗体による LD 酵素補充療法における免疫寛容導入には制御性 T 細胞が重要である、以上を明らかにしたことが主な進捗である。(2) に関しては左心不全ラットを作成し、脳内での Urocortin 2, 3, Nesfatin 1 およびその受容体の発現動態を明らかにするとともに、左心不全ラットに hANP の脳室内投与を行い、その前後での Urocortin 2, 3 の発現量の変化を解析した。臨床的研究では成長ホルモン治療中 SGA 性低身長症の経時的な発達の評価および脂質代謝やインスリン抵抗性におけるパラメーターの変動について検討を行った。(3) に関しては様々な遺伝性疾患に対して CGH や MLPA 法などで遺伝子解析を行った。